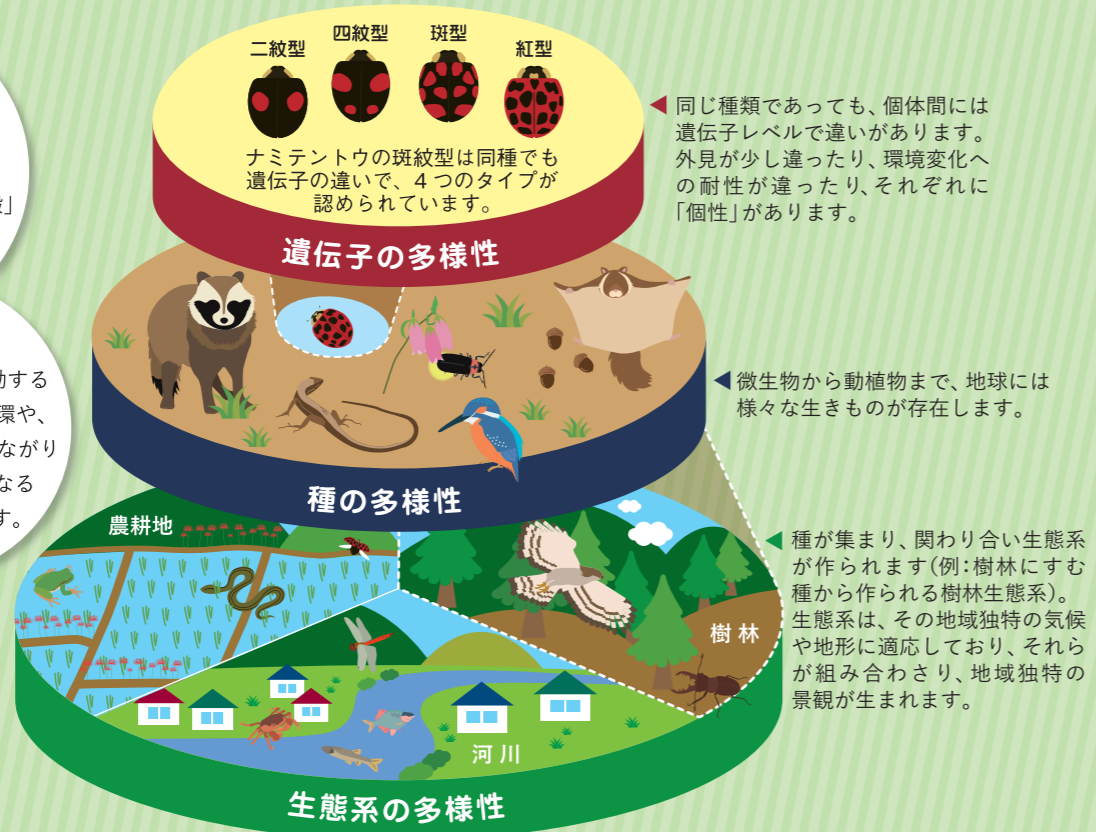




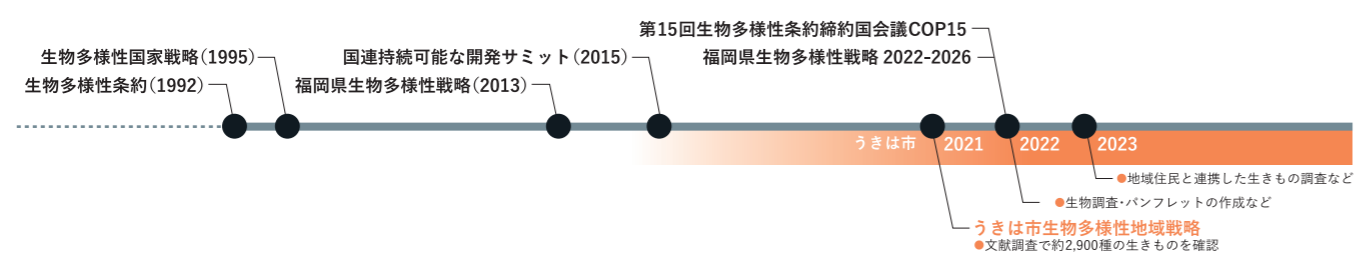
地球の生きものは、まだ見つかっていない種も含めると3,000万種以上。
 生きものは、長い歴史の中で環境に適応して進化し、互いに関わり合いながら生きています。
 このような生きものたちの豊かな個性とつながりを『**生物多様性**』と言います。
 また、生物多様性には、遺伝子、種、生態系の3つの多様性が含まれます。

生きものつながり
 生きものは、「食う～食われる」「寄生」「共生」「吸蜜」「花粉媒介」「種子運搬」など様々な関係でつながっています。

広い目でみると、生きものが地域を移動することで生じる物質循環や、森から海に至る水のつながりなど、スケールの異なるつながりもあります。



うきは市の取り組み



▶生物多様性の恵み(生態系サービス)

私たちの生活は、食料や水の供給、気候の安定や災害の抑制など、生物多様性を基盤とする生態系から得られる「恵み」に支えられています。この生きものからの「恵み」を持続的に利用し、安定した生活基盤を維持し、存続するために、生物多様性を保全することは、人類にとって重要な課題と言えます。

- 供給サービス**
水、食料、木材、衣類、医薬品など
- 調整サービス**
気候の調整、自然災害の抑制、花粉媒介
- 基盤サービス**
生育・生息環境の提供
- 文化的サービス**
レクリエーション、観光、芸術やデザインなど

新幹線500系の先頭部分は、カワセミのくちばしの形状を模倣することで、高速でトンネルに突入した際に発生する衝撃音を緩和することに成功したんだあ〜。これも生物多様性の恵みと言えるね。

▶生物多様性の危機

私たちの生活基盤である生物多様性は、現在危機的な状態にあると言われています。日本では、下記の4つの危機にさらされていると言われています。

- 開発や乱獲による種の減少・絶滅、生育・生息地の減少**
乱獲や環境の悪化により絶滅危惧種となったニホンウナギ
- 里地里山などの手入れ不足による自然の質の低下**
手入れされていない荒れた竹林
- 外来生物や有害な化学物質による生態系のかく乱**
在来生物の生息を脅かし農業被害をもたらすアライグマ
- 地球温暖化など地球環境の変化による危機**
気温上昇により収量や品質に影響が出てきたコメ

世界的な取り組みと生物多様性

▶SDGsと生物多様性

SDGs(=持続可能な開発目標)とは、2015年の国連サミットで採択された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴールから構成され「地球上の誰一人取り残さない」ことを誓っています。SDGsの17のゴールのうち、「6」「7」「12」「13」「14」「15」などは自然環境と関わりが深く、特にゴール「14」と「15」は生物多様性と直接的に関連します。



▶ワンヘルスと生物多様性

新型コロナウイルス感染症やよく知られた鳥インフルエンザなどの感染症は、人と動物双方に感染する「人畜共通感染症」で、人類に基盤な危害を及ぼしてきました。こうした人と動物、それらを取り巻く環境が直面している様々な課題に対して、医療分野や動物研究分野だけでなく、行政や企業、市民も一体的に解決していきというワンヘルスの取り組みは、世界的に広がってきています。人の手が入らない荒廃した里山林は、野生動物が人のエリアに侵入しやすく、人畜共通感染症の問題が発生しやすくなります。福岡県では「福岡ワンヘルス推進基本条例」のもと、里山林整備などの人と野生動物のすみ分けを進める取り組みを進めており、こうした取り組みは、生物多様性と大きく関わります。
 ▶詳しくは福岡県のホームページでご覧になれます。
<https://onehealth.pref.fukuoka.lg.jp/>

FUKUOKA ONE HEALTH
 ※ワンヘルス(One Health)とは「人の健康」「動物の健康」「環境の健全性」を一つの健康と捉え、一体的に守っていくという考え方です。

人の生業と生物多様性

山間部には棚田が維持され、農業が盛なうきは市ですが、農地の周辺にはイネ科草本を中心とした草場が見られます。こうした草場は、古くから人間にとって身近な存在で、屋根葺き用の材料、田畑の肥料、家畜の餌、燃料として利用するため、定期的に草が刈られてきました。日本のような温暖で雨が多い地域では、草場が放置されれば、樹木が侵入し、いずれは森になってしまいます。草刈りなどの人間活動によって維持されてきたこのような草場を「半自然草原」と言います。半自然草原には、ノコンギク、サイヨウシャジン、ホタルブクロなどの美しい花々が咲き乱れます。こうした植物はお盆の時期に供えられる盆花としてよく利用されてきたことから、文化的にもとても重要です。また、半自然草原に生えるイネ科の植物は、バッタ類、蝶の幼虫の食草やカヤネズミの巣材に、花は昆虫の吸蜜源になっています。このように、昔からおこなわれてきた生業が、日本人の文化の成立や生物多様性に寄与しているのです。

